

坂村真民記念館（砥部町）



**笑う門には
福来る。**

松山市勝山町1-18-10
(株)日本交通社
TEL(089)946-3911
発行人: 中村剛志

念ずれば花ひらく

新年を迎える初詣に出かけた人も多いでしょう。どのようなことを願い、どのようなことを誓つたでしょうか。

明治四十二年に生まれ、「癒しの詩人」と呼ばれた坂村真民は、「念ずれば花ひらく」という言葉を遺しました。

真民は「午前零時に起床して、夜明けに重信川のほとりで地球に祈りを捧げる生活」を長年続けていたといいます。一つの願いを心に思うだけでなく、行動として習慣にしていました。

人の心は、そのままに保つことが難しいものです。しかし、行動を伴わせることで、願いが薄まつっていくことに抗し、さらに思いを高めていくことができます。

日記をつける、太陽に挨拶するなど、毎日決まった型を身に付けることで、生活にくさびが打たれ、けじめがつきます。一日一度、同じことを続けられていることに自信が湧いてきます。

心の中にある思いを実現するため、日に一つ、何か始めてみませんか。



「職場の教養」より

明朗・愛和・喜勵

結女さんの松山ミクロン

金色の
水を吸いたし

ヒヤシンス

有名が
嫌ひで春の
すべり台



八木健さんの川柳アート



宇和ちゃんの啖呵短歌

ばつざりと枝落とされし街路樹に
ふうわり大きな空が戻りぬ

闘病の月日でありし丁酉
ひのとり

ふたたびの今しかと生きなむ

挨拶に磨きをかける

たかが挨拶、されど挨拶。日常の挨拶から相手の心に響く一言が出せるよう磨きをかけたい。

道しるべ